

コラム 薄川流域の須々岐水神社と八竜地区の集団移転

薄川は松本市の東に連なる筑摩山地の三峰山（標高 1887m）を源とする延長 17.6km、流域面積 79.5 km²の一級河川です。最下流部は松本市街地で田川と合流し、奈良井川・梓川を経て犀川へ流下しています。

薄川の下流では入山辺の舟付橋付近を扇頂とし、西側の松本市街地を広く覆う扇状地を形成しています。薄川は扇状地の高まりをさけるように流路をやや南にとり、江戸時代に流路が固定されまし

た。その後も繰り返し土砂・洪水氾濫が繰り返され、天井河川へと変化しました。

このため、下流での水害・土砂災害の大きな要因となりました。

薄川は山辺溪谷から流出して扇状地を形成していますが、薄川の左岸高台に橋倉地区があります。この地区の住民は、昔は薄川の北岸に居住していた、八竜地区と言われていました。

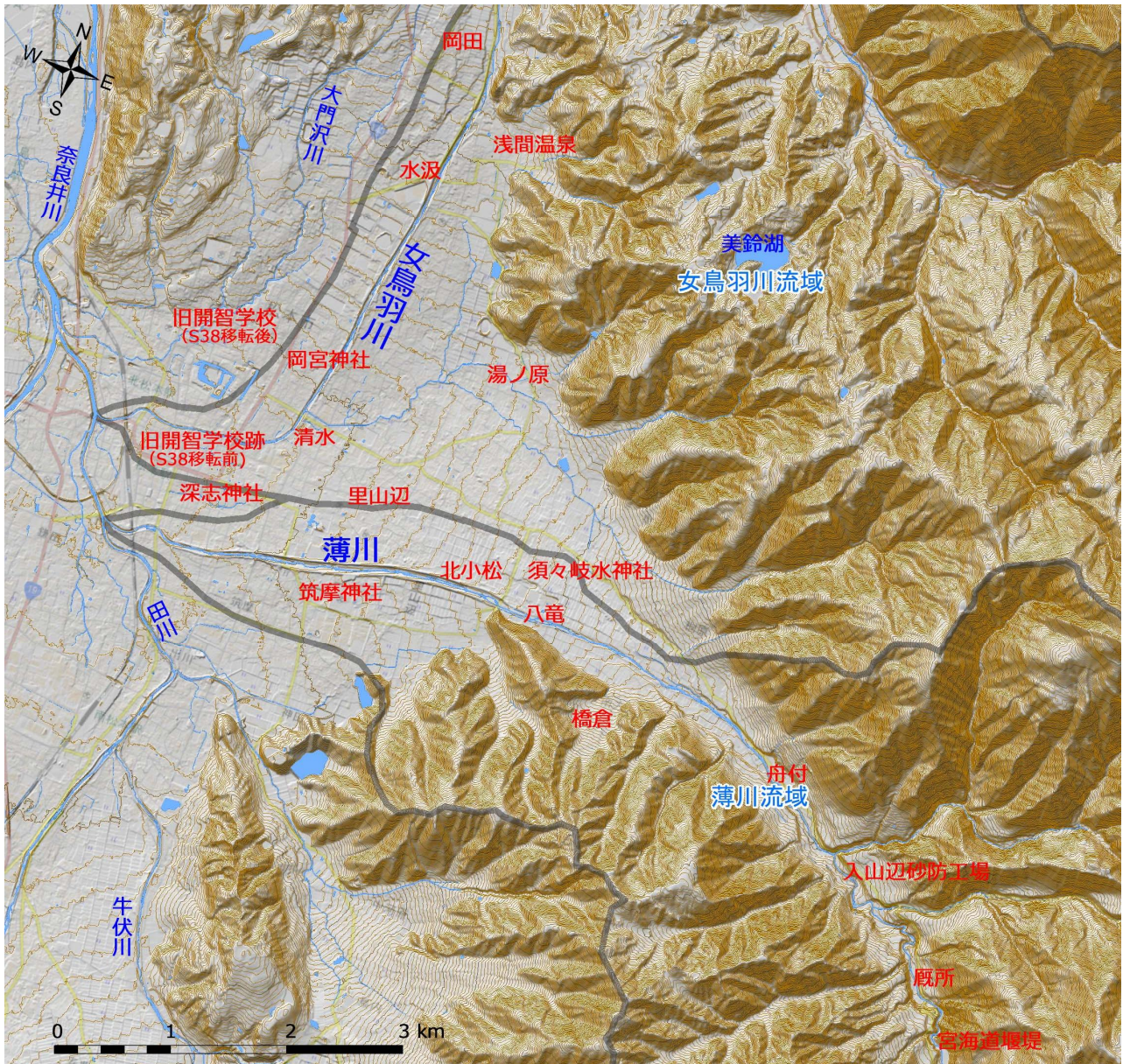


図 3.11 松本市薄川周辺の水害関連の主な地名（等高線は 5m 間隔、灰色太線は流域界）
地理院地図「標準地図」「陰影起伏図」、国土地理院基盤地図情報をもとに作成

薄川扇状地は稲作黎明期から水田が拓かれていました。しかし、洪水になると扇頂部から濁流が竜蛇となって襲いかかり、松本城下町までしばしば氾濫しました。

このため、八竜地区の住民は、度重なる水害を逃れ、逐次橋倉地区に移住しました。最後に残った1軒も明治期末に移住しました。

氏神の浅間神社は須々岐水神社（薄宮神社）に遷されました（写真3.26）。八竜地区には旧入山辺小学校と旧里山辺小学校が合併して、松本市立山辺小学校が建設され（写真3.27、3.28）、令和5年（2023）に50周年を迎えました（山辺小学校のホームページより）。

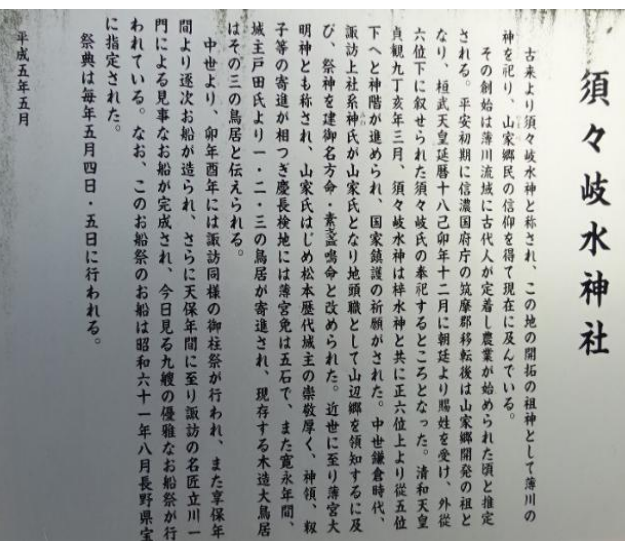


写真3.26 薄川の中流部に位置する須々岐水神社と説明看板，2024年撮影



写真3.27 薄川に架かる八竜橋と山辺小学校，2024年撮影



写真3.28 薄川対岸の橋倉地区，2024年撮影